

英国ナショナル・トラスト探訪紀行

～歴史的建造物や自然を守る英国の考え方～

有村 理

1. はじめに

今から約120年ほど前に3人の市民が発起人となり「ナショナル・トラスト」という環境保護団体を設立した。それ以来、英国ののどかな田園地帯や湖水地方の景観、また由緒あるカントリーハウスや歴史的建造物などがそのままの状態でも永久に保全される事になり、後世の一般市民がそこを訪ねる度に当時と変わらないあるがままの古き良き英国を楽しむことができる。

環境保護と観光との両立をはかる試み、いわゆるサステイナブル・ツーリズムが世界各地で模索されてきたが、実は英国ではこのナショナル・トラストが持続可能な観光を広く市民レベルまで啓蒙し、環境ツーリズムを実践してきたのである。今では350万人以上の会員を擁し年間約5万人のボランティアに支えられた欧州最大の民間環境保護団体になっている。

本稿は2010年の春、その英国のナショナル・トラストを限られた日程の中で地域とプロパティ（所有物件）を幾つか選定し、探訪した記録を英国の別の旅の楽しみ方として紹介するものである。

2. 英国のナショナル・トラストとは

「イングランド、ウェールズ及び北アイルランドの歴史的名勝および自然的景勝地のためのナショナル・トラスト」(The National Trust for Places of Historic Interest or Natural Beauty in England, Wales and Northern Ireland)と定義されている。ここで言うナショナルとは「国民の」という意味で、不特定多数の国民が参加し、国民の為に国民自身の手で価値ある美しい自然と歴史的建造物を市民からの寄付や寄

贈、遺贈、または買取りなどで取得し、保護管理し、公開する活動のことである。

3. 設立と背景

英国では18世紀中頃からの産業革命と貿易による経済発展で、1850年以降は急速に農村から都市への労働人口の集中が始まっていた。生活環境は劣悪化し無秩序な都市開発が進んだ結果、郊外にまで工場建設が拡大し、土地の囲い込みにより美しい田園地帯や歴史的建造物が次々に失われ始めていた。折しも当時鉄道が急速に敷設され始め、カントリーサイドの土地開発に拍車をかけ、これに危機感を覚えた人たちによる自然豊かな土地を守る運動「オープン・スペース運動」が芽生えてきた。この状況下で1865年、ロンドンに「共有地（コモン）保存協会」が発足したが、単なる協会であるため市民に必要な土地を取得し後世に残していく法的な力がなく法人組織が必要となっていた。

4. 3人の市民の先駆者

ここに後のナショナル・トラストを設立することになる3人の市民が歴史の必然のように出会い共感し、お互いの活動の一つにしていくのである。それは英国で最も自然景観が素晴らしいとされる湖水地方に起因していた。簡単に3人のプロフィールから見てみたい。

① ロバート・ハンター (Sir Robert Hunter)
弁護士 (1844-1913)

市民のための共有地（コモン）保存協会の事務弁護士になりナショナル・トラストの構想を1884年のバーミンガムでの集会で発表し法人組織の団体設立の必要性を説いた。

The National Trustの初代会長になる。

② オクタビア・ヒル女史 (Octavia Hill)
社会事業家・婦人活動家 (1838-1912)
都市の中にオープン・スペースを確保する必要性を訴える活動を展開し、ハンター氏の構想に協力、支援を表明。ナショナル・トラストの名付親と言われている。

③ キャノン・ハードウィック・ローンズリー (Canon Hardwicke Rawnsley)
イギリス国教会牧師 (1851-1920)
湖水地方の牧師で周辺の自然保護運動に長年携わり、雄弁で行動力があり各地で活動していた。ヒル女史を通してハンター氏と出会い、構想に賛同した。「湖水地方の番犬」と呼ばれていた。

この3人の出会いがナショナル・トラストを設立していくが、この湖水地方こそナショナル・トラストの「ゆりかご」の場所となっている事を忘れてはならない。英国人の自然保護思想の原点はここから誕生した。その流れはまるで一本の赤い糸で繋がっているように思える。

5. 湖水地方においてナショナル・トラスト創立とその後に多大な影響を与えた著名人

① ウィリアム・ワーズワース (William Wordsworth, 1770 - 1850)
英国を代表するロマン派詩人で「桂冠詩人」。湖水地方の北西の町、コッカマスの裕福な法律家の家に5人兄妹の第2子として生まれる。英国の湖水地方をこよなく愛しそのあるがままの自然の美しさと人間の共存を数々の詩に謳い、当時の人々の自然観を大きく変えた。後のジョン・ラスキンはじめナショナル・トラスト設立の立役者すべてに影響を与えた。自然環境保全の為、湖水地方への鉄道敷設の計画を阻止した。

② ジョン・ラスキン (John Ruskin, 1819 - 1900)
英国を代表する美術評論家で社会改革運動家でもある。ワーズワースに影響を受け自然保護の必要性を最初に英国社会に問いかけた。湖水地方のコニストン湖畔に晩年の28年間を大気

時代に初めて訪問したスイスのアルプスの自然美に魅了され、自身も優れた水彩画家でオックスフォード大学の美術の教授時代に教え子にローンズリーがいた。湖水地方への鉄道敷設を阻止する活動と資本主義経済のゆがみへの批判で後世の自然環境保護運動に多大な影響を与えた。

③ ビアトリクス・ポッター (Beatrix Potter, 1866 - 1943)
ロンドンの裕福な法廷弁護士の家生まれる。夏ごとに一家でスコットランドや湖水地方で長い避暑生活をした。その間、16歳の時、湖水地方で地元の牧師ローンズリーと出会い彼から絵を習う中で次第に湖水地方の自然の美しさに魅せられる。後に絵本のベストセラーになる「ピーターラビットのおはなし」は36歳の時に出版され、絵本の印税でニア・ソーリー村のヒル・トップの家を購入し本格的な絵本作家となる。それ以後、湖水地方の自然を守るため絵本の印税から次々に土地や農場を購入し環境保護活動に専念した。1943年、77歳で亡くなる時に夫のウィリアム・ヒーリスを通して1600ヘクタールの土地と15の農場が分割されないよう、全てをナショナル・トラストに遺贈する旨の遺言を残した。

6. The National Trust の現況

① 会員数
350万人(2010年)で英国人のほぼ17人に1人が会員で欧州最大の会員組織でもある。

② 組織
当初はエリザベス皇后が総裁であったが現在チャールズ皇太子が2003年3月から継承している。「一人の1万ポンドの寄付よりは、1万人の1ポンドずつ」が理念となっている。

③ スタッフ
有給職員は約5000人。城や館、庭園などの保全、修理、補修の専門職がある。絵画、美術品の保存、修理はビクトリア博物館やアルバート博物館の専門家からの助言をもらう。

④ ボランティア
約4万7000人(年間)以上。あらゆる分野

で無給の奉仕活動をしている。外国人にもワーキング・ホリデーのシステムがあり環境保全活動に参加する事が可能である。

⑤ 会費 (2010 年度)

個人年会費=48.50 ポンド (@160 円で約 7,800 円)、ジュニア会員 (13-25 歳未満) は 22 ポンド (約 3,500 円)。家族会員 (夫婦と家族全員) 84.50 ポンド (約 13,500 円)

⑥ 保全資産 (2010 年度)

土地：カントリーサイド (田園地帯・田舎・郊外・農村地域) の 25 万ヘクタール。森林・農地・牧場・運河・納屋・公園・草原・荒地・沼・沢地など様々である。その他、城や貴族のカントリーハウスなどを所有。海岸線：709 マイル (1,141 キロ)、スコットランドを除く、イングランド・ウェールズ・北アイルランドの海岸線の約 20%を管理、保護している。

⑦ スコットランドを除く英国の 27 世界遺産の内、その 7 件を所有 (部分保有を含む)

⑧ 来訪者数

- ・入場料を徴収する入場者は年間 1200 万人 (会員は無料)
- ・カントリーサイドなどのほとんどはオープン・スペース無料、合計すると推定来訪者 5000 万人である。
- ・国内最大の学校の課外教室の場として毎年 50 万人以上の学童が訪問している。

⑨ トラストの収入状況 (2010 年度)

年間総収入約 3 億ポンド (約 480 億円)

7. ナショナル・トラストへの法律優遇策

国はナショナル・トラストに一切の経済援助をしない代わりに、トラスト活動を支えるための法による特権を付与してきた。これがナショナル・トラスト発展の最大のサポートとなった。

① ナショナル・トラスト法 (National Trust Act)

- ・1907 年制定。
- ・保存・管理する資産について「譲渡不能」を宣言する権利を与えた。

- ・保有財産の管理と保護のための規則制定権、保有財産に対する入場料の徴収権を付与した。

② 最大の特典としての財政法の制定

- ・1931 年改正財政法制定。
- ・ナショナル・トラストへ寄贈、遺贈された保存対象資産 (不動産) は相続税が非課税。
- ・寄贈者の子孫はテナントとして代々、そこに住み続けることができる。ただし一定部分の公開が義務で特定の期間ハウスを公開する。

③ 改正ナショナル・トラスト法

- ・1937 年「保存誓約」制度の導入。これによりトラスト所有の資産の周囲の自然環境や歴史的環境の破壊・開発を防止する事ができるようになった。

これらの特権を与える法律によって貴重なカントリーハウスがナショナル・トラストに寄贈され、永久に保存できるようになった。またそこで働く農業労働者も職を失うことなく農業を続けていけた功績も大きい。

8. 英国ナショナル・トラスト探訪紀行

▽ 訪問期間

2010 年 3 月 18 日 (木) ~ 3 月 28 日 (日)

▽ 訪問地域と主な訪問都市

① イングランド北部

- ・マンチェスター・リバプール
- ・湖水地方 (ウィンダミア・ボウネス・アンプルサイド・ホークスヘッド・グラスミア・ニアソーリー・コッカマス・ケジック・コニストン)
- ・チェスター

② イングランド中部

- ・ストラトフォード・アポン・エイヴオン
- ・コッツウォルズ地方 (ケルムスコット・バイブリー・チェルトナム)
- ・チェドワース

③ イングランド南部域

- ・ティンスフィールド・バース
- ・ソールズベリ・ヘイスティングス
- ・バトル・ライ

④ ロンドン市街

- ・市内の有名パブ
- ・シャーロック・ホームズ博物館

▽ 旅のルート

3月18日： 日本(関空)ー パリ経由 ー
マンチェスター (泊)

19日： マンチェスター ー リバプ
ール (泊)

20日： リバプール ー 湖水地方ー
ウィンダミア河畔ボウネス(泊)

21日： ボウネス ー コッカマス
ー ケジック ー グラスミア
ー ボウネス (泊)

22日： ボウネス ー ニア・ソーリ
ー ー ホークス・ヘッド ー
コニストン湖(ブランドウッド)
ー チェスター (泊)

23日： チェスター ー ストラッド
フォード・オン・エイヴオン ー
コッツウォルズ地方 ー チェ
ルトナム (泊)

24日： チェルトナム ー チェドワ
ース ー ケルムスコット ー
ティンスフィールド ー バー
ース (泊)

25日： バース ー レイコック ー
ソールズベリ (泊)

26日： ソールズベリ ー ストーン
ヘンジ ー セブンシスターズ
ー ライ (泊)

27日： ライ ー ヘイスティング
ス ーバトル ー チャートウ
ェル ーヒースロー (泊)

28日： ロンドン (泊)

29日： ロンドンより帰国へ

▽ 英国内での移動手段

- ・レンタカー 9日間、トータル走行距離
1186マイル約1900Km、平均210Km/日

▽ ナショナル・トラスト・ツーリングパス

- ・NT ツーリングパスは事前購入 46ポンドに

郵送代 4ポンド計 50ポンドをインターネットで事前予約支払いをすると自宅に郵送される。最初の訪問場所でのスタンプから 14日間有効。

- ・NTのガイドブックとスタンプ用パスポートは現地にて購入する。パスポート一冊に最大 30個のスタンプを押して全部完了後、郵送するとナショナル・トラストから認定書が送られてくる。ガイドブックは 400ページもありイングランドを7つのエリアに分けて全プロパティ(所有物件)を網羅している。

▽ 宿泊

- ・リバプールとロンドンを除いて英国各地のB&B(朝食付きの個人経営ホテル)に宿泊する。オーナーがそれぞれ個性的な朝食を提供してくれる。英国旅行では最も経済的な宿泊所である。場所にもよるが1泊朝食付きで一人 6000円から 8000円である。どのB&Bでもベッドとリネンが清潔に保たれぐつすり睡眠がとれる。

▽ 英国のパブ

- ・英国庶民の社交場であるパブはどんな小さな町にもあり、各地の地ビールと典型的なパブ料理が味わえる。今回の旅行では毎晩パブに通い時には何軒かのはしごをした。印象に残るパブを以下に取り上げた。

①リバプールのキャバン・クラブ



ビートルズゆかりの有名パブである。

②湖水地方のホール・イン・ザ・ウォール



湖水地方最古のパブで動物の飾りが多い。

③チェスターのパイド・ブル



英国最古のパブの一つ。幽霊伝説あり。

④ライのマーメイド・イン



古いパブで海賊の隠れ家でもあった。

⑤ソールズベリのホーンチ・オブ・ヴェニソン



この地域で最古のパブで鹿料理で有名。

⑥ロンドンのシャーロック・ホームズ



ビールもすべてが探偵ホームズに因む。

この中のチェスターのパイド・ブルは 1155 年に歴史を遡る。中世の頃は馬車の宿泊所となり 1533 年に作られた階段もそのまま残っている。後に訪ねるライのマーメイド・インのパブと英国最古の歴史を競うパブで幽霊伝説が残っている。今も幽霊がでるとの事でその階段を上り 2 階の宿泊施設を案内してもらった。普通の部屋であったができれば一泊して幽霊体験をしたかった所である。

ソールズベリの名物パブ、「The Haunch of Venison」は 400 年の歴史があるパブでその昔カードゲームでいかさまをした人の手が切り落

とされ、カードと共にショーケースに展示されていた。訪問した数日前にそれが盗まれて街で大事件になっていた。

ライのマーメイド・インも 1420 年創業の古いパブで、当時は海賊がパブ内の秘密の入り口から地下を隠れ家として使っていたという。今は地下まで入れないが確かに秘密の出入り口があり、パブで酒を飲んで出入りしていた往時の海賊が出てくるようで大変興味深い

▽ 訪問したNTのプロパティ（所有物件）をカテゴリー別に以下で紹介したい。

湖水地方を訪ねて

① ワーズワース・ハウス (Wordsworth House)

英国を代表するロマン派詩人、ウィリアム・ワーズワース (1770-1850) の生誕地。18 世紀のジョージアン様式のタウンハウスで生誕から幼少期をここで過ごした。

2009 年 11 月の大雨で近くのダーウェント川が氾濫し大洪水になりコッカマスの町が全域で水没し大きな被害が出た。このタウンハウスの地下室も水没したが、NT の人々の努力で貴重な財産を守った。当時の洪水での水没ラインの標識が立てられている。ここでは地元ボランティアが 18 世紀当時のコスチュームを着て生活様式やキッチンでの調理の仕方を詳しく説明してくれる。裏庭のガーデンは果樹園でリンゴがなる。



② ダブ・コッテイジ

ワーズワースの創作活動の最も盛んな時期に妹のドロシーと 10 年間住んでいた家。その間、幼馴染のメアリーと結婚し子供をもうけたが共同生活をしていた。できるだけ質素に徹したワーズワースの生活振りが当時のままの状態で保存されている。部屋の中は暗くロウソクのすすで黒ずみ匂いが立ち込めて

いた。メアリーはあまりの質素な生活のため、37歳の若さで全ての歯が抜け木の入れ歯をしていたという。(解説員の説明)。



③ ヒル・トップ (Hill Top)

『ピーターラビットのおはなし』など絵本童話作家として成功したビアトリクス・ポターが1905年、39歳の時に印税で湖水地方に小さな農場(ヒル・トップ)付きのコテージを購入したその家。以後ヒル・トップが絵本の舞台になっている。当時の調度品から生活用具までそのままの状態で見られる。77歳で死去するまで湖水地方の自然を守る活動をした。入場は時間指定制。入り口は狭く2階建ての1階にリビングとキッチン、2階に4室あるが比較的狭く天井も低い。



④ ビアトリクス・ポター・ギャラリー (Beatrix Potter Gallery)

ホークスヘッドにあるビアトリクス・ポターの作品展示ギャラリー。夫のウィリアムが弁護士事務所として使っていた建物なので建物自体は普通でひっそりとしている。2階で彼女のオリジナルの原画やスケッチブックが毎年テーマを入れ替えて展示されている。見学は時間指定制で人数制限があり現地で受付時に時間が指定される。内部の写真撮影は禁止されている。



⑤ キャッスルリッグ・ストーン・サークル (Castlerigg Stone Circle)

ケジックから車で10分ほどの広大な野原にミステリアスに環状に並んだストーン・サークルがある。紀元前3000年頃に作られたとされている38個の大小の岩が環状に並べられており、岩の配置は天文学的な意味があるとか古代の儀式に使われたとか諸説がある。ナショナル・トラストが管理しているオークの標識が入り口にあり寄付金箱もあるが管理者は現地に誰もいなかった。遠方にはなだらかな山並みが見える野原の中にある。



⑥ ブラントウッドのジョン・ラスキンの邸宅

ホークスヘッドから西方にあるコニストン湖畔のブラントウッドにある邸宅でナショナル・トラストの管理ではなくジョン・ラスキン財団が管理している。18世紀後半に美術評論家として活躍し湖水地方の自然環境保護活動を推し進め、後にナショナル・トラスト創設に多大な影響を与えたラスキンが1872年から亡くなる晩年の28年間住んだ邸宅である。当時の大気観測用の六角形の張り出し窓や地球儀、望遠鏡、天文学や気象学の文献などがそのままの状態で見られる客間があり、大変興味深い。邸宅から望むコニストン湖とそれを取り囲む山並みのコントラストの眺めは素晴らしい。コニストン湖は湖水地方で3番目に大きい湖で周囲の牧草地には牛、馬がのどかに草を食んでいる。



有名人の邸宅を訪ねて

⑦ スピーク・ホール

リバプールにある黒塗りのどっしりとしたチューダー様式のカントリー・ハウスで 1530 年に建造された。邸内はビクトリア朝のインテリアでウィリアム・モリスの壁紙がライブラリーや幾つかの部屋の壁紙に使われ重厚さが伝わる。どの部屋にも NT の年配の地元ボランティアが待機してそれぞれの室内の調度品から年代物の置物の歴史などを説明してくれる。



レセプション前の待合から NT 専用の「ビートルズ・ツアー」バスが出発する。1 回につき 16 名までの予約者を NT が管理するビートルズゆかりの 2 軒の家に案内する約 2 時間のツアーで一人 16.8 ポンド。一日に 4 回往復している。



⑧ メンディプス (Mendips)

元ビートルズのジョン・レノン(1940-1980)が幼少の 5 歳からおよそ 18 年間の青年期までを過ごした叔母の家で住宅街にあり当時の生活用具や家具が残っている。築 70 年以上の英国の典型的な 2 棟建てのセミデタッチド・ハウスでジョンの部屋は 2 階にある。2002 年、未亡人のオノ・ヨーコがこの家を買取りナショナル・トラストに寄贈した。NT 専属のスタッフが常駐し各部屋を案内してくれる。



⑨ 20 フォースリン・ロード・アールトン (20 Forthlin Road, Allerton)

元ビートルズのポール・マッカートニー(1942-)が家族と 1955 年から過ごしたテラスハウス。ポールが近所のジョン・レノンと知り合いバンド音楽の練習をこのリビングでよく行っていた。1998 年にポール自身の希望でナショナル・トラストに寄贈された後、残されていた写真を元に NT が 1950 年代当時の生活様式をできるだけ忠実に再現した。両隣の家は普通の一般住民が暮らしているので公開は 1 日 4 回で各 30 分に限定している。



⑩ チャートウェル (Chartwell)

元英国首相のサー・ウィンストン・チャーチル(1874-1965)の邸宅で 1922 年に購入し 90 歳で亡くなるまでおよそ 40 年間をこの邸宅で過ごした。ロンドンの南、車で数十分のケント州の森の中に建つ。邸内は一家が過ごした 1920 年代から 30 年代の生活様式をそのままの状態で開催している。チャーチルが亡くなる前からこの邸宅はナショナル・トラストに寄贈されていた。毎年 6 月からはバラが満開となり美しいローズ・ガーデンが有名である。NT のショップでチャーチルゆかりの記念品やキャラクターグッズがお土産として人気がある。



映画の舞台となった場所を訪ねて

⑪ レイコック・アビー&ヴィレッジ (Lacock Abbey & Village)

村全体がそっくりタイムスリップしたかのような中世の面影をとどめナショナル・トラストで保護されている。J・K・ローリングの「ハリー・ポッター」シリーズの第一作、「ハリー・

ポッターと賢者の石」のロケ地でもある。ロンドンから西に車で2時間ほどの所にある。修道院は13世紀の建築でタルボット家が1800年代から長く住居にして当時の生活の様子を今に残している。この修道院の中庭や回廊が映画に登場している。ほとんど人影を見なかったがレイコック村は普通に人々が生活をしている。また近代写真技術の生みの親、フォックス・タルボットの写真博物館も入り口にあり興味深い。



⑫ セブン・シスターズ (Seven Sisters)

映画「ロビン・フッド」(1991年)の中に出てくるドーバー海峡に面して立つ白い石灰岩層の絶壁で7人の姉妹が立っているように見えることからこの名がついた。海岸線に直立にそそり立つ絶壁の上まで行くことができるが柵など一切ない自然の状態に常に強風が海から吹きつけている。フランスから船で英国に来る時に必ず目にするこの白い絶壁はイギリスを代表する有名な景勝地でナショナル・トラストにより保護されている。



古代の遺跡とローマ人の足跡を訪ねて

⑬ ストーンヘンジ (Stonehenge)

ソールズベリの北15キロに位置するこの先史時代のストーンヘンジの起源は5000年前に遡るとされている。その後紀元前3000年前から1600年前に何回かの段階を経て巨石を環状に配置し横石を上に乗せ、内側にも馬蹄形に巨石を配置して現在の状態になったと推定されている。夏至の日の出と冬至の日没に太陽の光が

直線で中の建造物に入るように仕組まれているが、この巨石建造物は実際に誰が何の目的で造ったかなどは現在も諸説ありミステリアスな雰囲気を作りだしている。1918年に国の所有になり、近くのエーヴェリーにあるストーンサークルを含めて1986年に世界遺産に登録された。現在は英国ヘリテイジ財団が管理し一部がNTで保護されている。NTの会員は無料で入場できる。日本語を含む数カ国語の音声案内機器をレンタルすることができる。



⑭ バース (Bath)

1世紀にローマ人が英国に攻め入り各地にローマ人の町を作ったがその代表的な街がバースである。英語のバースが風呂の由来になり18世紀には英国上流階級の保養地として発展した。街中はジョージアン王朝風のどっしりとした建物が多く残されており往時の繁栄が伝わる。ローマン・バス跡は特に有名で観光のメッカになっており日本語のオーディオガイドでローマ時代から続く温泉の歴史を知ることができる。街は坂が多い。半円形をしたテラスハウスのロイヤル・クレスセントは優美なジョージアン王朝様式を代表する建造物である。街中のアッセンブリー・ルームズは当時の貴族の社交場で綺麗なシャンデリアがかかっており、NTが管理している。バース市街全体は1987年世界遺産に登録された英国屈指の観光地でもある。



⑮ チェドワース・ローマン・ヴィラ (Chedworth Roman Villa)

英国南部のコッツウォルズ地方の都市、チェ

ルトナムから南西に車で1時間ほどの丘陵地帯にローマ人が2世紀に造った長方形の保養施設がNTの管理で公開されている。2世紀当時の保養施設には50室以上の部屋があり、ローマ人が風呂場の他に既にサウナや床暖房を備えた保養施設を持ち、部屋の床には今も鮮やかなモザイクが残り贅沢な施設を偲ばせる。NTの管理施設として地元の小学校の子供達が先生に引率されてこの遺跡に校外学習で来ていた。



⑩ チェスター (Chester)

英国中部に位置する街チェスターの歴史は古く、1世紀にローマ軍が基地として占拠し北方からの防御のため街を石の壁で囲む城壁を造った。東西南北に4つのゲートがある。城壁内の街はチューダー朝様式の白壁と黒い梁の建物が軒を並べ、さながら中世の街にタイムスリップしたような感がある。街中のホテル、パイド・ブルは歴史が古く1155年に創業し、英国一古いパブもあり、このホテルの幽霊伝説がパブ内の黒板に表示している。街の中心にはどっしりとしたチェスター大聖堂がある。



歴史上の有名な場所を訪ねて

⑪ ヘイスティングスとバトル (Hastings & Battle)

英国南部の海岸線にあるヘイスティングスは歴史上有名な1066年10月14日の天下分け目の決戦「ヘイスティングスの戦い」の舞台である。フランスのノルマンジー公ウィリアムがイギリス国王ハロルド軍を破り英国を占領したそ

のバトル(戦闘)がこの街の名前にもなっている。市内の道路沿いには「1066 Battle」の表示がいくつも立っている。占領後ウィリアム征服王がバトル城を建てたものが現在、英国ヘリテージ財団が管理運営している。中に入ると1066年10月14日の戦いの一日を再現したパネルや両軍の実際の戦闘服や武器の展示がある。城の裏は実際の戦場跡で日本語の音声ガイドのレンタルもあり、約1000年前の戦闘当日の様子を解説で聞きながら歩いて回るルートが設定されている。NTの会員でもここは別に正規の入場料金がかかる。



⑫ ライ (Rye)

ヘイスティングスから車で30分ほどの海岸線にある英国でも人気の小さな港街である。アンティークショップやギャラリーが石畳の道と坂の通りに並ぶ落ち着いた観光の街になっている。街中にあるマーメイド・インは1420年に再建された歴史を持つホテルでそのパブは英国でも最古のパブとして由緒がある。その昔は英国の海賊の隠れ家にもなり秘密の通路がある。街のセント・メアリー教会は1150年に建てられた後、1300年代にフランス軍にライの街が占領され焼き払われた時にも残った教会である。その時にフランス軍に持ち去られた一つ200Kgもある教会の4つのベルは後に英国が取り戻した歴史を持つ。屋上に登るとライの街が一望できる。近くにイブラ・タワーという城があり、大砲がいくつも海に向かって置かれている。



⑱ ソールズベリ (Salisbury)

英国屈指のゴシック建築の大聖堂を囲み 13～14 世紀の中世の風情を残した古い街並みを持つ。大聖堂では英国に現存する「マグナ・カルタ」の原本の1つが展示されている。交通の要所でもありここからストーンヘンジへの日帰り観光拠点になり賑わっている。



ジェーン・オースチンの小説を映画化した「いつか晴れた日に」の撮影に使われた 18 世紀の優雅な邸宅は、実は大聖堂の前にある「モンペッソン・ハウス」で収録されたもので、NT が管理公開している。



おわりに

初めて英国ナショナル・トラストを訪ね、レンタカーで巡る 10 日間のイングランドの旅だった。マンチェスターからスタートし湖水地方に北上してからイングランド南端のドーバー海峡に面したライの街まで縦断し、最後のロンドンまで 1900 km を越えるドライブをしながら 20 箇所余りを訪問した。日本で言うと青森県から鹿児島県までの距離になる。ナショナル・トラストで保護されている歴史的建物は都市部だけではなく農村の中や丘陵地帯の森の中、人里離れたローマ時代の遺跡であったりする。途中で道を訪ねる人もいない田舎ではただカー・ナビゲーションと自分の勘に頼りながら探し当てるのに一苦労する事も度々あった。

訪問時に注意する事はナショナル・トラストのプロパティはそれぞれ週内の開館日と時間も異なり、プランニングが重要である。春は夕方 5 時までの開館が一般的なので長距離のドライブでようやく現地に到着した時には既に入館時間を過ぎてしまう事もあるので要注意である。

限られた期間ではあったがこのナショナル・トラストを訪ねる英国の旅は本当のイングランドの良さと、環境ツーリズムを実践する市民の自然と環境を守る意識の高さに触れた旅行でもあった。

最後に NT Handbook (2010) のメンバーシップ用ガイドブックに書いている以下のスローガンを引用したい。

「Best of all, you will know that you are helping to protect the places you enjoy for ever, for everyone」

※本稿は神戸海星女子学院大学での第 25 回公開講座 (2013 年 10 月 19 日) においての口頭発表に加筆修正したものである。

参考文献

- 伝農浩子、辻丸純一(2005), 『イギリス湖水地方』、JTB パブリッシング
- 原啓吉(1998), 『ナショナル・トラスト新版』、三省堂
- National Trust Handbook (2010)
- 小野まり(2006), 『図説 英国ナショナル・トラスト紀行』、河出書房新社
- 横川節子(2001), 『イギリス ナショナル・トラストを旅する』、千早書房
- 四元忠博(2007), 『ナショナル・トラストへの招待』、緑風出版